



明日に向かって

報告レポート No.74

喜びも悲しみも分けあって支え合い、共に生きる社会の実現に向けて



令和8年1月5日県の仕事始め、午後時間をとっていただき知事室へ。
今年新しい挑戦を恐れず前進「午年」、正月から続く凄まじい吹雪は、まさに災害級。
この豪雪地帯に暮らす県民の皆様の安全安心、そして暮らしやすさの充実を何よりも優先したい――。
知事とそんな決意を語り合う、貴重なひと時となりました。

ふるさとの山に向かいて言う事なし

3月は「予算議会」とも言います。24日で終わり、当初予算7514億円で昨年比419億円の増となりました。そして令和8年度の主要事業については「青森県基本計画「青森新時代」への架け橋」における「しごと」、「健康」、「こども」、「環境」、「交流」、「地域社会」、「社会資本」の7つの政策テーマに沿ってご説明を頂きました。こうした施策を着実に実行し、限られた予算を最大限に活かして、執行する為に、執行部も議員もいいアイデアを出し合って建設的な議論を重ね、全ては県民の安全安心、福祉向上に全力で頑張ります。この度は壇上での質問の内容ですが、紙面の都合上全部報告できず、残りは75号で報告したいと思います。つたない報告ではございますが、ご高覧頂き引き続き皆様方の貴重な声を届けて頂きます様お待ちしております。



よく晴れた2月の岩木山、津軽平野から。
雪の多い年は豊作、豊漁だと昔の人々は言っていた。

青森県議会議員

工藤 兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鰯ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2
TEL 0173-72-1224・FAX 0173-72-1233

討 議 資 料



西津軽郡選出 自由民主党
工藤兼光 議員

西津軽郡選出 自由民主党 工藤兼光議員の一般質問

問1 青の煌めきあおもり国スポについて

おはようございます。

自由民主党の工藤兼光でございます。

第325回定例会に当たり、登壇の機会をいただき、感謝申し上げます。

せっかくの機会ですので、議長のお許しをいただいて、所感を語りながら質問に入りたいと思います。

2026冬期オリンピック、ミラノ、コルティナ大会が2月に行われました。

その中で日本のアスリート達の見事な活躍ぶり、全世界の観衆が見守る中、金、銀、銅、合せて24個のメダルを獲得したのであります。中でも金に輝いた「りくりゅうペア」の演技は歴史に残り末代まで語り継がれる事

だと思ふ。またあれだけの演技を続け乍ら、メダルに届かなかった「平野歩」選手、へこたれることなく、「又次に向けて」と力強いコメントその気力に私もなんだか勇気がわいてきたような気がしてならない。

「感動の無い所に発展性はない」と人々は言う、以上を申し上げて質問に入ります。



メイン会場：カクヒログループアスレチックスタジアム

最初の質問は、青の煌めきあおもり国スポについてであります。

いよいよ今年、本県では昭和52年の「あすなろ国体」以来、実に半世紀ぶりとなる。国民スポーツ大会、国スポの本大会が開催されます。

申し上げるまでもなく、国スポは国内最大のスポーツの祭典であり、国内トップクラスの選手たちが力と技を競い合い、そして多くの関係者の方々が本県を訪れます。

この祭典を迎えるに当たって、私は、故・木村守男先生が青森県知事時代に宣言した「スポーツ立県」を思い起こしました。

今から27年前、平成11年7月11日、約1万5千人の人々が見守る中、青森県総合運動公園野球場で行われた。セレモニーにおいて、「スポーツに親しみ、スポーツに強い青森県」の実現を目指す、「青森県スポーツ立県」が当時の木村知事により高らかに宣言されました。

この日は、「国際ラグビー親善試合」や車いすロードレースなどの「障害者スポーツの集い」など、様々なイベントが行われ、スポーツを通じて、青森県が大いに沸き立った、一日だったことを思い出します。

20世紀の終節に打ち出されたこの宣言は、21世紀に向けて打ち出されました。

このため、今年本県で開催される国スポに、このスポーツ立県宣言の精神が受け継がれる、受け継がれなければならない。と私は考えています。

木村知事の宣言に次の一文があります。

「目標にむかって全力を尽くす選手たちの懸命な姿は、私たちに大きな共感と活力を与えてくれます。スポーツの魅力のすべてを心と体で感じ取り、新鮮な夢と感動をここから発進し、世界の人々と共有していきましょう。」

この言葉から、私は、この大会を盛り上げ、レガシーとして引き継いでいくためにも、子どもたちに、国内トップクラスの選手たちの競技を是非とも観戦してもらおうべきだと思いました。



「青森県スポーツ立県」を宣言した
平成11年当時の木村守男知事

そこで、国スポを盛り上げ、県民の記憶に残る大会とするため、次代を担う子どもたちが競技を観戦できる環境づくりを進めるべきと考えますが、県の取組状況について、お伺いたします。

答① 今年は世界でも、日本でもスポーツの一年になります。2月のミラノ・コルティナ冬季五輪、3月のワールド・ベースボール・クラシック、6月のFIFAワールドカップ、9月に愛知県で開催されるアジア競技大会、そして10月の青の煌めきあおもり国スポと、日本中の子どもたちがこれらの観戦を通じて新たな挑戦を始め、夢を広げるきっかけとなる一年となります。

答② そして、青森県の子どもたちにとって、青の煌めきあおもり国スポは、国内トップレベルの選手や競技を観戦し、本県選手をはじめ各都道府県選手に声援を送ることで、スポーツの感動を実感できる、またとない機会になると私は考えています。

答③ このため、県では、小学校及び中学校の児童・生徒が競技を観戦できるよう、県教育委員会や市町村と連携して、各学校に競技会場での観戦を働きかけるとともに、観戦に際して使用するバスの借り上げ等に係る支援を行うこととしています。



国スポ冬季大会アイスホッケー競技の学校観戦の様子

答④ この結果、現時点において、県内390校うち、39市町村の347校が観戦を行うこととしています。

残りの43校についても、これから更に参加を呼びかけ、全ての子どもたちがスポーツで一つになる瞬間を作っていきたいと考えています。

「国スポ障スポ横断幕を背にして議会中、お昼のひと時」



毎年、都道府県持ち回りで開催される、国内最大のスポーツの祭典の歴史は、戦後の混乱期中で、国民に希望と勇気を与える為、昭和21年に、戦災を免れた京都府を中心とした京阪神地域に於いて、第1回国民体育大会が開催されました。以後広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して、国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と、地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにする、という目的のもと行われているという事です。

次に、青森県立高等学校教育改革についてであります。

私の地元にある鱒ヶ沢高等学校は、昭和18年の開校以降、有為な人材を多く輩出してきましたが、人口減少の影響もあり、平成30年度には、ついに1学級となり、さらにその後、入学者数が一桁となってしまった年もありました。

しかし、近年は、学校、自治体、地域などの関係者が一体となって学校の活性化に熱心に取り組んできたため、入学者数が20人を超えることもあって聞いております。

そこで、2点質問いたします。

1点目として、鱒ヶ沢高等学校の活性化に向けて、学校及び鱒ヶ沢町ではどのような取組をしているのか、お伺いいたします。

また、鱒ヶ沢高等学校は、現在は青森県立高等学校教育改革推進計画において「地域校」として配置されていますが、令和10年度から令和19年度を計画期間とする青森県立高等学校魅力づくり推進計画の基本方針においては、新たに「地域共育校」を配置することとされています。

地元住民の一人として、鱒ヶ沢高等学校が今後どのようなようになるのか、非常に気になっております。

そこで、2点目として、青森県立高等学校魅力づくり推進計画における地域共育校の概要について、お伺いいたします。

- 答①** 鱒ヶ沢高等学校を含む地域校においては、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会における協議結果等を踏まえ、学校と地域等が一体となって、教育環境の充実に取り組んでおります。
- 答②** 鱒ヶ沢高等学校が実施している具体的な取組としては、鉄道のダイヤ編成に合わせた登校時刻の設定、ゴルフ部・野外活動部といった特色ある部活動の設置等があります。
- 答③** また、鱒ヶ沢町が実施している具体的な取組としては、登校時刻に合わせたコミュニティバスの運行、検定試験や通学等に係る経費の支援等があります。

答① 令和10年度から計画期間とする青森県立高等学校魅力づくり推進計画基本方針では、地域とともにある高等学校づくりを進めるため、各実施計画期間開始時において、市町村に1校のみ配置される1学年当たり2学級以下の規模の高等学校を地域等と一体となって学校の活性化に取り組む地域共育校として配置することとしています。

答② また、地域共育校として配置する高等学校については、教育活動の質の向上に計画的に取り組むことができるよう学校の活性化に向けた方策等について、協議する地域協議会をあらかじめ設置することとしています。

答③ 地域協議会では、毎年度、学校の活性化に向けた取組を進め、その成果や課題について検証するとともに、高等学校教育として求められる質の確保の観点を考慮しながら、検証結果や入学者数の状況に応じて、更なる改善策、学級減や募集停止を含む学校の在り方について協議することとしています。

県立鱒ヶ沢高等学校全景



昭和18年に開校した県立鱒ヶ沢高等学校。最盛期には1,000人に迫る生徒たちがこの門をくぐりました。それから80年の歳月が流れ、教える庭に残雪の残る3月、卒業生わずか13名が卒業証書を手に入れました。送辞や答辞、そして『蛍の光窓の雪』の歌声が響くなか、大空へと翔たく若者たち。涙、泪に包まれた、感動の卒業式となりました。

「文教公安委員会要望活動」

「教育環境の充実と少人数学級の実現に向けて」昨年12月18日文教公安委員会では、本県の教育環境の更なる充実を図る為、国に対し要望活動を行いました。

はじめに、12月8日に発生した青森県東方沖地震により学校施設が被害を受ける中、災害時教育支援チーム(D-EST)が派遣され、学校再開に向けた迅速な支援が行われました。関係機関のご尽力に深く感謝申し上げます。

本県では「こどもまんなか青森」の実現に向け、きめ細やかな教育の充実、教員の働き方改革、安全で安心できる教育環境の整備に取り組んでいます。これらを一層推進する為に、次の事項について国の支援を要望しました。



少人数学級の推進

中学校における35人以下学級の確実な実現

高等学校における35人以下の学級の早期の実現

教育の質を維持・向上させる為の教員配置の充実

学校施設・教育環境の整備

老朽化した校舎の改修や安全対策

ICT教育環境の整備

バリアフリー化の推進

災害を受けた学校施設の復旧や、老朽化した校舎の改修・整備、および安全対策。子供たちの学び舎と教育環境のさらなる充実に向け、尚一層のお力添えをいただきたいと、委員会委員全員で強く要望いたしました。

文部科学省要望活動

文部科学省「矢野和彦」文部科学審議官に、文教公安「成田陽光」委員長から手渡す



少人数学級の推進は、児童一人ひとりに目が行き届く教育の実現につながる重要な取り組みです。すべての子どもたちが安全で安心して学べる環境を確保するため、必要な財源の確保を求めました。今後も、子どもたちが健やかに学び成長できる教育環境の実現に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。

問6 西北地域の振興を支える道路整備について

(1) 津軽自動車道柏浮田道路の整備状況について伺いたい。

答① 国直轄事業として整備が進められている津軽自動車道は、全体延長約38キロメートルのうち、これまでに約7割となる約25キロメートルが供用されています。

答② 未供用の区間については、柏浮田道路として平成30年度から事業着手されており、用地取得は順調に推移しているほか、軟弱地盤対策などの道路改良工事が鋭意進められています。

答③ 県としては、引き続き、県議会や地元自治体に御協力をいただきながら、柏浮田道路の早期完成を国に強く働きかけていきます。

盛り土が進む津軽自動車道下相野付近



津軽自動車道は木村守男衆議院建設政務官時代、浪岡から鱒ヶ沢間全体延長38キロメートルの工事着工をスタートさせた。25メートルの供用開始、残りの12.3キロメートル柏浮田間、国直轄事業、木村次郎代議士始め県国会議員達の政治力期待したいとおもいます。

(2) 西津軽能代沿岸地域における道路整備の状況について伺いたい。

答① 西津軽能代沿岸地域において、国道101号は、青森県とまた秋田県を跨ぐ唯一の幹線道路でありながら、近年の豪雨により、度々、通行止めが発生するなど、その脆弱性が課題であると認識しています。

答② これまでに、両県の沿道市町と連携して議論を重ね、

- 令和6年9月には、深浦町と秋田県八峰町が、それぞれの地域防災計画に相互応援協定を組み込んだことや、
- 昨年4月には、国道101号のうち両町の防災拠点である深浦町役場と道の駅「はちもり」間を結ぶ区間が、国から重要物流道路の代替補完路として追加指定されたこと



追良瀬Ⅱ期バイパス上空写真

橋桁がかけられ大勢の職人たちが頑張っています。

など、当該地域の道路機能強化に向けた基盤が整ってきたところです。

答③ また、県事業では、追良瀬Ⅱ期バイパスについては、(仮称)新追良瀬橋の架設工事が今年度末に完了し、令和9年度までに部分供用する見通しで整備を進めているほか、令和6年度から事業化している岩崎バイパスでは、現在、道路詳細設計を進めているなど、引き続き、当該地域の道路整備を着実に進めていきます。

「西北地域の振興を支える道路整備について」の再質問をいたします。

津軽自動車道柏浮田道路には（仮称）木造インターチェンジの設置が予定されています。そして、県はそのアクセス道路となる、県道稲盛千代町山田線の整備を進めています。インターチェンジの効果を十分に発揮するためには、柏浮田道路の進捗に合せた県道の整備が重要であると考えます。

そこで「（仮称）木造インターチェンジへアクセスする県道稲盛千代町山田線の整備状況」についてお伺いし

答① 県では、（仮称）木造インターチェンジや国道101号などへのアクセス向上を図ることを目的として、令和元年度に延長1.5キロメートルの県道稲盛千代町山田線バイパス整備事業に着手しています。



答② 今年度は、前年度に引き続き埋蔵文化財調査及び道路改良工事を進めており、昨年10月には、用地取得が完了したことから、今後も着実に整備を進めていきます。

深浦町

鱒ヶ沢町

「警報級の大雪」 豪雪地帯の調査に走る宮下知事





鱒ヶ沢町では、平田町長、副町長、建設課等が合流し青森みちのく銀行、七ツ石町中心に町長の説明の下調査をされました。

令和8年2月7日、青森県豪雪対応にともなう現地視察が行われました。
長慶平1号線および長慶平地区を視察し、深浦町長と意見交換を行いました。
平澤町長からは、例年の2倍に達する降雪量への対応として、町職員による雪下ろしや消防団との緊密な連携状況について説明を受けました。
その後、知事は海岸沿いの国道101号を視察しながら、鱒ヶ沢町へと向かいました。

平田町長から切実な状況説明が行われ、宮下知事は真剣な面持ちでその一挙手一投足に耳を傾けていました。
地域の除排雪の現状と課題を直接確認したのち、宮下知事率いる調査団は、さらなる状況把握のため申泊町へと向かいました。

最後の質問は、特殊詐欺等の発生状況と対策についてであります。

毎日のように県民が特殊詐欺や SNS 型投資・ロマンス詐欺の被害に遭っていることが報道されております。

先日、全国で、特殊詐欺や SNS 型投資・ロマンス詐欺の令和7年の被害総額が過去最悪を更新したとの新聞記事を目にしました。

最近では特に、警察官などを騙った特殊詐欺が相次いで発生しており、テレビ電話を使って偽の逮捕状を示し、被害者の不安をあおって現金をだまし取るなど、その手口が悪質巧妙化しています。

昨年12月の文教公安委員会でも警察官騙りの特殊詐欺について、他の議員から質問があり、県警察から御答弁をいただいておりますが、少しでも多くの県民に特殊詐欺等の危険性を周知し、被害を減らさなければならぬと考えています。

私自身も、参加する各種会合では、特殊詐欺防止のポスターを参加者に見せて、特殊詐欺の危険性を周知しています。

県警察でも、さらなる取組を推進していただき、特殊詐欺等の抑止に努めていただきたいと思います。

そこで、2点質問いたします。

(1) 本県における令和7年中の特殊詐欺及びSNS型投資・ロマンス詐欺の発生状況について伺いたい。

答 特殊詐欺等の発生状況と対策のうち、本県における令和7年中の特殊詐欺及び SNS 型投資・ロマンス詐欺の発生状況についてお答えいたします。

令和7年中の県内における特殊詐欺及び SNS 型投資・ロマンス詐欺の認知状況につきましては、暫定値で、



特殊詐欺が

認知件数 **155件**

被害額 **約6億362万円**

SNS型投資・ロマンス詐欺が

認知件数 **117件**

被害額 **約8億5,237万円** となっております。

(2) 特殊詐欺等被害防止強化に向けた県警察の取組について伺いたい。

答 続いて、特殊詐欺等被害防止強化に向けた県警察の取組についてお答えいたします。

県警察では、最新の手口を県民に周知するために、



● 県警察防犯アプリ「まもリン」や県警察公式X、

Instagramなどを活用した迅速な情報発信

● 防犯講話や巡回連絡の機会を通じた対面による注意喚起

● 防犯ボランティアと連携したスーパーマーケット等での広報啓発活動 などを行っております。

また、昨年12月には特殊詐欺等被害防止対策の集中警戒期間を設け、金融機関やコンビニエンスストアなどの関係機関・事業者と連携して、

● ATM警戒を強化し、利用者への注意喚起を促進

● 金融機関職員に対する水際対策教養

● コンビニエンスストアへの巡回強化

などの取組を県下一斉に行い、県民が特殊詐欺等に遭わないための未然防止対策を強化しております。

青森県警察では、被害を未然に防ぐ為「まもリン」等のポスターを作成し詐欺等に遭わないよう未然防止対策を強化しています。